

---

❖ シンポジウム ❖

---

---

シンポジウム

唯識仏教（法相教学）の伝来と展開—中国・新羅・日本

2021 年 10 月 10 日（日）13:15～17:00

オンライン開催（Zoom）

---



司会の蜷川 祥美 氏（岐阜聖徳学園大学 教授）

---

❖ 概 要 ❖

---

2021 年 10 月 10 日（日）シンポジウム「唯識仏教（法相教学）の伝来と展開—中国・新羅・日本」が開催され、三人の登壇者が研究発表を行った。

---

『宋高僧伝』に見る中国唯識学派の展開

講演者：吉村 誠 氏（駒澤大学 教授）

---



吉村 氏

一人目の発表者の吉村誠氏は唯識並び中国仏教を専門とする研究者である。今回は、宋・賛寧撰『宋高僧伝』の伝記資料、特に〈義解篇〉の4巻を扱い、唯識（俱舎も含め）・天台・三論・律・華嚴等の教学研鑽について講演した。

まず、吉村氏は〈義解篇〉巻4～7に録される約72名の学僧、所属の学派及び経論の兼学を概観した。72名の内訳は、唯識・俱舎を学ぶ僧が凡そ36名（唐20名、五台13名、宋3名）、天台の僧が9名、華嚴の僧が7名、密教の僧が7名、三論の僧が2名、他の系統不明の僧が12名であったと伝えられている。ここから、唯識または俱舎の学僧を中心にして僧伝を編纂した賛寧の意図が読み取れるという。また、吉村氏は華嚴学派の澄観を例として、当時の僧は自派の所依經典『華嚴経』のみではなく、律・三論・天台・禅等を兼学し

ていたことを明らかにした。

次に、吉村氏は唐以後の義解においては、唯識の人物が中心となったことを紹介した。唯識の学僧として、普光、法宝、円測、慧沼、義忠などが挙げられる。

最後に、吉村氏は唯識の系譜を華嚴・天台の系譜と比較しながら、賛寧の記述について論じた。賛寧は玄奘—基—慧沼—義忠の学系を重視するが、これまで多くの日本の唯識研究者が提唱していた所謂三祖説（基—慧沼—智周）のような祖統説を提唱しなかったと、吉村氏は述べた。また、吉村氏は安史の乱以後から唐末、五代、宋初における唯識、俱舍、百法の学習状況にも言及している。特に注目すべきは、宋代後半期において、玄奘の高足である慈恩大師基への評価が高くなり、「慈恩宗」という称呼が現れることである。吉村氏は、『宋高僧伝』の「窺基伝」、成尋の『参五台天台山記』、「唐太宗皇帝御製基公讃記」を用い、基の宗祖像の形成を明らかにした。

また、華嚴と天台の系譜に関する賛寧の記述について、吉村氏は次のように述べる。華嚴の系譜について、賛寧は杜順—智儼—法蔵までの三祖を確定し、慧苑を評価すると同時に澄観を法蔵の継承者と見ている。ただし、吉村氏は澄観の師である法洗と慧苑の間に学系が見られないという。天台の系譜について、賛寧は第九祖の湛然までを確定していたが、湛然の弟子の元浩は第十祖とされていなかった。このため、第十祖について、玄燭説や道邃説などの異説が生じることになった。

以上の議論を踏まえ、吉村氏は、宋代に展開した唯識仏教の特徴として教学仏教の危機、新しい教義の模索、教学仏教の復興、禪宗との対抗、慈恩宗の対応という五つの点を指摘し講演を締めくくった。

「新羅唯識研究の現況—写本研究を中心に—」

講演者：師 茂樹（花園大学 教授）



師 氏

二人目の発表者の師茂樹氏は唯識・因明、三一権実論争などの教学を幅広く研究している。

師氏によると、韓国において唯識研究は漢文文献を中心に進められてると述べた。一例として、近年、慧眼氏が博士論文「護命の『大乘法相研神章』研究と訳注」を提出したことを紹介した。一方、日本での法相唯識、特に論義の伝統は海外の研究者にあまり知られていない事情にも言及し、これからは日本の唯識研究を海外に紹介することも必要と述べた。また、師氏は近年の新羅唯識研究の動向について以下の5点を指摘した。

- ① 国際化。師氏は東国大学校を中心に新羅唯識研究の進展と、英語による新羅唯識研究の活発化を強調する。英語による研究の活発化について、アメリカ宗教学会（AAR）2018年度大会の Yogacara Studies Unit で、新羅唯識パネルがあった。それに、*Journal of Korean Religions* 11/1 (2020)で Special Issue: Yogācāra Studies of Silla（新羅唯識特集）にチャールズ・ミュラー氏、スミ・イー氏、ジユン・キム氏、ロナルド・グリーン氏、及び師氏の論考が掲載された。そして、大賢を中心に、空有論争、如来蔵思想と唯識思想、『大乘起信論』などについての Lee 氏の研究成果が注目されている。

- ② 義寂。朴堯娟（박광연）氏により義寂著『法華經論述記』等の研究が進展した一方、「金山寺と韓国の唯識思想」学術セミナー（韓国仏教歴史文化記念館、2014 年）の開催に伴い、『東国史学』の特集「新羅義寂の仏教思想」も刊行された。
- ③ 元曉。2017 年、元曉生誕 1400 年をきっかけに、元曉の『中辺分別論疏』などを含む文献・思想研究が進展した。一方、諸々の記念イベントが開催された。東国大学校で「21 世紀元曉學의 意味 外展望—元曉撰述文獻의 系譜學的省察」の国際学術大会を開いた。金沢文庫と東国大学校の共催で「アンニョハセヨ！元曉法師：日本がみつめた新羅・高麗仏教」の特別展示会の同時期に、「元曉と新羅仏教写本」の国際学術大会も開催した。国際仏教学会（IABS）もトロントで、“「New Approaches to Wŏnhyo and His Thought-A Panel in Commemoration of the 1400th Anniversary of His Birth」のパネルを設けた。
- ④ 『判比量論』。元曉研究に伴い、『判比量論』の写本断簡（大谷大学所蔵写本の断簡）が発見された。2018 年、東国大学校で学術大会「元曉『判比量論』、文献と思想の再照明」が開催された。このように所謂インド論理学の研究にも大きな進展があった。
- ⑤ 円測。『判比量論』の写本断片研究で、円測『成唯識論疏』の写本断片が発見された。また、円測の『無量義経疏』の推定や、沙門宗『因明正理門論注』に引用した円測の逸文、撰者未詳『神通論』と円測思想の共通性などの指摘によって、研究が進められている。ほかには、新羅撰述説もある『釈摩訶衍論』の唯識研究について、金知妍氏の研究を紹介した。

師氏は最後に、伝弘法大師の古筆切に見られる唯識文献の断片について紹介した。それらは、元曉の『判比量論』、基の『成唯識論述記』などの抜書、円測『成唯識論疏』などのような『成唯識論』注釈書の断片、『神通論』などのおよそ 6 種のグループに分けることができるという。師氏はこれらの古筆切と唯識文献の関連性を論じ講演を締めくくった。

「日本唯識における論義の展開—『唯識論尋思鈔』を中心として—」

講演者：後藤 康夫 氏（世界仏教文化研究センター 客員研究員）



後藤 氏

最後の発表者の後藤康夫氏は 2022 年に刊行予定の『貞慶撰『唯識論尋思鈔』の研究—「別要」教理篇・上』の編輯者の一員である。この度貞慶撰『唯識論尋思鈔』（以下『尋思鈔』）に焦点をあてて、日本における論義の展開について講演した。

後藤氏は、まず日本論義における形成期・大成期・展開期の区分、さらにこの論義大成期における『尋思鈔』（通要・別要）や蔵俊・良算などの論義書について紹介した。そこで、『尋思鈔』の作意と書写について述べられた。貞慶は数人との談義に基づいて、『尋思鈔』の別要と通要を作成した。『尋思鈔』は完成後すぐに書写されたことが重要であるという。明暦三年清兼等の書写は現在知られる龍谷本や谷大本、仏大本とのつながりが想定できる。

次いで、後藤氏は『尋思鈔別要』巻一に記された「種姓段」「縁起段」「教体段」などの論義項目を例示した。また、「若論顛理」＝「顛理の空観」を一例として、主に智周著『成唯識論演秘』、基著『大乘法苑義林章』、真興著『唯識義私記』などの関連箇所を確認し、基の五重唯識について詳細に考察した。

基は五重唯識を提唱し、空・有と遍計所執性・依他起性・円成実性の関係を説いた。注目すべきは、基の文献では、観行の功能—空有観により有空執を取り除くことができると述べられていることだ。「空有観—有空執」と「空為門」との関係には触れられていないが、観行の方法及び機能が明言されている。良算は『唯識論同学鈔』において、基や智周の見

解を採用して論じていたことがわかる。これは論義の形成において、中国・新羅唯識では論義化されてなかったものが、日本では論義化されたという過程を示している。また、良算の師の貞慶は有観によって真理が顕現されることを否定し、基の五重唯識中のどのレベルで真理が顕現するのかについて、初重・第五重・遣相それぞれの段階でそれぞれに説明できるという新知見を案出した。

最後に、後藤氏は定性二乗の因明証明（宗・因・喩の論式）という定性比量の論題を例示し、「二乗之果応無定性」の因明論義について論じた。声聞・縁覚の二乗が成仏するか否かについて、一乗家（最澄、源信など）と法相家（徳一、真興、蔵俊）との間で、繰り返し論争が行われた。この論義に対して、貞慶は「大乘の者」（喩）には畢竟成仏の不定性と畢竟不成仏の定性の二つを共に承認する法相の立場を支持し、法差別相違の過失は成立しないとした。また、一乗家の源信はこの論義を相違決定の過失が成立しないと主張した。

以上、後藤氏は「若論顕理」と「定性比量」という二つの論題に見られる貞慶の新知見を指摘し講演を終了した。



ファシリテーターの楠 淳證 氏（龍谷大学 教授）